



— 鹿児島市立吉田北中学校 —

北だより 12月号

『竹のお話』

校長 鮫島 讓

寒くなってきました。ここ鹿児島でも雪の降り積もる季節です。雪が降り積もると、竹はどうなるのでしょうか。竹は雪の重さでしなります。竹よりもっと太い木が雪の重さに耐えられず折れてしまっても竹はじっと耐え、少し暖かくなると、バサッと力強く雪を払い除け、真っすぐ上に伸びます。



なぜ竹は雪の重さに耐えられるのでしょうか。それは「節」があるからだと言われています。竹は中が空洞で柔らかい植物ですが、節の部分は太くて中身があります。節があることで、竹はしなやかさと強さの両方を持つこととなります。

「節目」という言葉があります。人の生活も竹と同じように区切り＝「節目」があります。毎年1回、必ずあるのが新年、1月です。1月には「今年は何に頑張ろう」と多くの方が思いますが、その行動を続けることはとても難しいことです。1月になってから考えるのではなく、普段から「自分はどんな生き方をしたいのか。どんな職業に就きたいのか。そのために進学先はどうするのか。では、今、どんな時間の使い方をすればよいのか。」を考えるとうよいと思います。進路というと、職業や進学先のことを主に考えますが、「どんな人になりたいか」という「人間性」はとても大切です。私は皆さんに、周りから愛され、応援される人になってほしいと思っています。優しい人、思いやりのある人は周りから応援されます。

互いに応援し合い『よさ』を認め『可能性』を伸ばす吉田北中を、全校生徒、全職員でつくっていきたくと思っています。

倒されし竹はいつしか立ち直り

倒せし雪はいつしか消えてなくなる

「目の前の障害はいつの日にか消え去り、再び明るい時が訪れる。だから少々の困難にはめげずに頑張ろう」というものです。毎日の生活はうまくいかないことが多いですが、不遇な時を耐え、地道な努力をつづければ必ず結果はついてくるものです。来る2024年、成長が早く、しなやかで力強い竹のように、少々の困難に負けず逞しく生活していきましょう。【登り龍】のように飛躍の年としたいものですね。

今年も残すところあとわずかとなりました。保護者の皆様や地域の方々のご協力のおかげで無事一年を終えられそうです。心から感謝申し上げます。来年も、本校の教育活動へのご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

行事

12月の活動紹介

【小中交流タイム】

12月9日（土）に、今年度2回目の小中交流タイムを実施しました。1学期は、小学校の全児童・中学校の全生徒で、中学生が考えたレクリエーションを楽しみました。今回は、11月に生徒会活動を引き継いだ第77期生徒会の学習文化部が中心となり、初めて大きな行事の企画と運営を行いました。

今回の小中交流タイムでは、絵本の読み聞かせ（「ちいさいフクロウとクリスマスツリー」）とレクリエーション（フラフープくぐりリレー）、クリスマスツリーのタペストリー作りに取り組みました。事前の話し合いや練習、リハーサルを積み重ねたこともあり、当日は、小学生たちの笑顔をいっぱい引き出すことができました。

生徒たちは、今回の小中交流タイムの経験から、準備（段取り）の重要性やみんなで力を合わせてやり遂げることの大切さを学んだようです。



【人権教室】

11月30日（木）に、人権週間の取組の一環として、人権教室を行いました。今年度も講師に県人権同和教育研究協議会会長の西良博先生をお招きして、「子どもの人権と同和問題」をテーマにお話をいただきました。西先生のお話から「人権」とは、誰もが自分らしく、胸を張って堂々と生きること、人の命が輝くことだ、ということ学びました。



